

13) *Reussia rotundifolia* Castell.** *Monochoria vaginalis* Presl. var.*plantaginea* Solms-laub. (コナギ)** *M. korsakowii* Regel. et Maack (ミズアオイ)** *Heteranthera limnosa* Willd. (アメリカコナギ)

Araceae サトイモ科

14) *Pistia stratiotes* L. (ボタンウキクサ)

** 日本国内で見つもの

水草と水辺環境

蒲原 幸生

過去40年近く企業の間で仕事を続ける内、遂に海水、淡水共々に海から川そしてダムから湖とご縁ができ、最初は1987年頃、大阪近郊の一庫ダムという都市に近い水ガメに浄化能力のテストとして、ホテイアオイとの付き合いがはじまったのでした。

次いで丁度、世界湖沼環境会議が開かれる頃、琵琶湖の西北、西の湖にカナダモが異常発生し真珠母貝の窒息という被害が告げられ、スイスのチューリッヒ、ついで米国のカリフォルニアに出かけて其の湖や運河での進んだ水生雑草防除の実態と刈り取り船を調査する機会を得た。今では琵琶湖や霞が浦方面に何台か活躍をつけ、極最近では上野の不忍池でハスを刈っているが、要は水草の管理という問題がまったくの素人の身に生物とのつながりとなったのでした。爾来、ホテイアオイ研究会や、この水草研究会にご縁をもとめると共に、この30余年間、しだいに水辺環境に着目して水草を追はざるを得ず、目下、次のような水辺環境(海水、淡水を問わず)に縁のありそうな集まりに参加、月平均2~3回はなんらかの集會に加わって居るのが現状である。独断ながら、1988年頃から、関心を持ったこの種の集まりは次の数々である。

- ① 土木学会
 - ② 日本陸水学会
 - ③ 水資源・環境学会
 - ④ 日本環境教育学会
 - ⑤ 近自然環境復元研究会
 - ⑥ 大阪自然環境保全協会
 - ⑦ 日本水文科学会
 - ⑧ 都市環境研究会
 - ⑨ 水郷水都全国会議
 - ⑩ 日本沿岸域会議
 - ⑪ 京都大学環境衛生工学会
 - ⑫ エントロピー学会
 - ⑬ ホテイアオイ研究会
 - ⑭ 高槻の水辺環境を守る会
 - ⑮ 水草研究会
- その他

これら会員各自はその会にあるいろいろな専門の分野

で部分的に参加しているが、小生は水辺環境という断面で勉強させていただいている。

大滝末男先生(名誉会長)や角野康郎先生(神戸大学)に伺うと、最近急に地球環境ということが世界中叫ばれるにつれて、年々益々水草への問い合わせが増加しつつあると聞いている。

また以上のいろいろの研究会、学会は見方によるとおおよそ開発か自然保護か及びその中間かの3通りに分けられそうである。その度合いは百花繚乱のおもむきであって、社会的、政治的、科学的、経済的、文化的、果ては哲学的等々と言え各見方が入り交じりその多様性は目を見張るばかりである。

更に、最近では21世紀に向かって資源、廃棄物、リサイクルさては南北問題、貧困、飢餓などのキーワードといよいよ絡んで行くようである。

このような世の趨勢にあって、この水草研究会会員のかたがたが一般世間から兎角、忘れられがちなこの水草については是非、外部に大いに出かけて発言し、水草からみた身近で科学的、然も基礎的な環境問題の考え方をPRして、その意見を完全でなくとも、どしどし発表し、世の中に警鐘をならすべき好機到来だと信じる。

なお、できれば単に水草だけに捕らわれずに、同じ水中に深い関係のある昆虫、水鳥、魚類など生物と水草との関係も発表して陸水学的視野から、現在の環境問題に世間に目を開かせる必要を感じる。要は、水草の周囲こそ、桜井善雄先生(信州大学)の説かれる陸界と水界と気界との複雑ながらも極めて生態的であらゆる問題にかかわりを持つ誠に格好なモデルで、真の環境問題解決のヒントが潜んでいると思われる。環境とは周囲との無限のかかわりに着眼する問題であると理解している。

重ねることになるが何とぞ水草研究会会員総力を上げて、他の分野に働きかけ、世にこの研究会の存在をしらせるべきだと思われ、より一層のご活躍を祈るばかりである。(1993年 春)

参考資料

- ① ホテイアオイ研究会 NEWS LETTER No.10, 1987.
- ② 沖 陽子(編)水生雑草と陸水環境管理システム
J&L社 リムロジー応用研究室 AUG,
31, 1986
- ③ 一庫ダム, 水資源公団 1988
- ④ 桜井善雄. 水辺の環境(生き物の哲学). 新日本出版社, 1992